

面接力は「生きる力」

(全 生 徒 に 必 要 な 力 で す 。)

面接力とは聞きなれない言葉ですが、「言いたいこと」を表す適当な言葉が他に見つからなかったのが「面接力」としました。(「言いたいこと」はこの後、書きます。)面接力は「生きる力」ですから、進路活動に「面接」が課せられる人だけに求められる力ではありません。すべての生徒に必要な力です。その上で、進路活動に「面接」が課せられる人には、「面接術」が必要です。これも、聞きなれない言葉ですが、やはり、「言いたいこと」を表す適当な言葉が他に見つかりませんのでご容赦ください。

まずは、創刊号「第一志望合格のためのゲームプラン」と重複しますが、一般選抜を勝ち抜く力の復習です。創刊号の言葉遣いとは多少変わり、一般選抜を勝ち抜く力を筋力と技術に例えます。(面接力は筋力、面接術は技術です。)

模擬試験で測られる力、これは筋力、偏差値は筋力です。ここで間違えないでほしいのは、筋力測定を目的化しないことです。筋力測定には目的があります。目的は筋力アップ。模擬試験後のフォローを充実させて、筋力を増強してください。

次に技術。これは個別大学対策です。サッカー選手とラグビー選手が体力テスト(模擬テスト)で勝負して、どういう結果になろうとも、両者がサッカールールで競えばサッカー選手が勝ち、ラグビールールで競えばラグビー選手が勝ちます。

では、個別大学対策はいつやるか。あなたの偏差値相当(合格率50%)の大学の対策は寒くなってからで結構ですが、必ずやってください。やらなければ、50%以上の確率で落ちます。50%というのは個別対策をやった人とやらなかった人による統計ですから、やれば受かるし、やらなければ落ちるということです。

しかし、偏差値相当(合格率50%)の大学は、あなたの第一志望校ではないでしょう。第一志望校の偏差値はあなたの偏差値より間違いなく上です。この第一志望校の個別対策、これだけは早期に始め、その後の期間、第一志望校の出題傾向を常に意識しながら、偏差値と闘ってください。この意識の有無が勝敗を大きく左右します。

前置きが長くなりました。いよいよ面接力(筋力)と面接術(技術)ですが、これは一般選抜と違い、圧倒的に筋力勝負です。面接員に眼力さえあれば、技術は不要と言ってもいい。3年生の進路活動の面接対策に模擬面接があります。ここで面接力を測定し、次回までに面接力をアップしたいわけですが、時間が無すぎます。したがって、多くの場合、面接力の向上は諦め、面接術だけの

準備になるわけです。教科・科目における筋力トレーニングは、皆さん、高校入学時から続けている。であれば、面接力の向上も、高校入学時からする必要があります。（3年生、安心してください。今までそういう言葉を使っていないだけで、今までも筋トレしていますよ。それが「能力伸長・生田メソッド」です。私が「生田メソッド」と名付ける前から、皆さんは、ご自身の「能力」を「伸長」させて来ました。）

面接力とは何か。「自分を語る力」です。ですから、これは「生きる力」です。皆さんの進路活動に面接試験があるかないかは関係ありません。全生徒が鍛えるべき力です。

面接で語るべき「自分」とは何か。それは、「今まで何をしてきたか」と「これから何をしたいか」の二つです。前者を自己紹介・自己PRと言い、後者を志望動機と言います。

自己紹介は、「今まで何をしてきたか」ですから、協調性とかリーダーシップとか粘り強さとか、そういう抽象語の羅列では駄目です。志望動機は「これから何をしたいか」ですから、個別大学を褒めちぎってもプラスにはなりません。（褒められなければマイナスですが、平凡な褒め方で十分です。）学部・学科への興味・関心が「これから何をしたいか」のレベルにまで昇華して、つまり、自分を語って、初めてプラスになります。「自分」のない「学部・学科への興味・関心、これは「個別大学の褒めちぎり」同様、退屈な内容です。つまり、大きくは「志望動機」も含めて「自己紹介」なのです。「これから何をしたいか」は「今まで何をしてきたか」と根底ではつながっています。一般選抜一本の皆さんも、この力なくして大学に進むと苦勞することになります。大学に入りはしたが、目的・目標が定まらず、意味のない4年間を過ごしてしまえば、就職活動（面接）はもはややり様がなくなります。

では、全生徒に必要な「自分を語る力」、とりわけ「今まで何をしてきたか」（自己紹介）と「これから何をしたいか」（自己紹介的志望動機）を語る力、これをどうやって鍛えるかということですが、「書く」ことに尽きます。まずは、志望動機を後回しにして、「今まで何をしてきたか」という視点で、自己紹介を字数制限なしで書き続けることです。書くということは、思い出すということです。思い出すことは、15歳以前のことばかりではありません。高校入学後のことも、改めて書いてみると、様々なことが思い出されます。そうやって、思い出されたことの中から、「今まで何をしてきたか」という具体的事実を裏付けられた「最高の自分」を見つけ出してください。このネタだったらいくらでも話せるという「最高の自分」を見つけ出し、そのネタを150字から200字にまとめてください。時間にして、30秒から40秒です。「長くもなく、短くもなく」です。この最高の自分は「突っ込みどころ満載」のはずです。何しろ、いくらでも話せる自分を大胆カットで175字前後にしたわけですから。そして、面接員が突っ込んでくれたらOKです。突っ込み続けてくれたら、大成功です。面接とは「突っ込まれてなんぼ」の世界です。

志望動機も同様です。字数制限なしの自己紹介の中に最高の「これから何がしたいか」が転がっていませんか。無ければ、「これから何をしたいか」について、字数制限なしで書き続けてください。そして、そこから最高の「これから何がしたいか」を見つけ出し、具体的自分に裏付けられた志望動機を150字から200字にまとめてください。突っ込んでもらうために。（次号に続く。）